

はやま湖まつりで「がにまきうどん」大好評



▲大倉婦人会のみなさん

みんなのひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。

身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場企画室 TEL42-1613

7月27、28日に大倉のはやま湖で行われた「はやま湖森と湖まつり」で大倉婦人会が販売した「がにまきうどん」がまわりに訪れた人たちに大好評でした。

この「がにまきうどん」は、川に生息する「モクズガニ」を使った郷土料理で、すりつぶしたカニの身がたくさん入ったうどんは、カニの風味満点の料理です。

現在はモクズガニの生息数が減っているのに加え、作るのに大変手間のかかるこのうどん。同婦人会では2日間限定100食を用意しましたが、今では珍しいものが食べられるとあって、販売開始後すぐに売り切れてしまっただけの人気があった。

婦人会ではあらかじめ地元の人にカニを捕っておいでもらい、このうどんを作ったとのことでした。



▲1学期はみんな良い子だったかな

新1年生に初めての通知票

小中学校で一斉に終業式

7月19日、村内の小中学校で一斉に1学期の終業式が行われ、今年春入学した新1年生にはじめての通知票が手渡されました。

このうち、草野小学校では、終業式前の学級活動の時間に通知票が子供たちに一人ずつ手渡され、子供たちは、先生に名前を呼ばれると大きな声で返事をして先生の前に進み、先生から「よくがんばったね」などと言われながら初めての通知票を受け取っていました。

表に「天馬」と大きく書かれた通知票を受け取った子供たちは、早速クラスメートと通知票を見せ合ったり、自分の通知票を確認したりして1学期の小中学校生活を振り返っていました。

だが、大好評のうどんの売れ行きに、会員たちは苦労したかがあったと嬉しそうでした。

20の

リポート



志賀優美さん

仙台市在住
(藤平出身)

◆今思うこと

仙台に来て3年目に入りました。仙台は杜の都というだけあって緑が多くて住みやすい街です。

成人を迎えて数ヶ月が経つけれど、まだ学生ということも手伝ってか、恥ずかしながら特に実感がありません。もう少し経って、選挙をする機会があれば少しは実感するかもしれませんね。

さて、二十歳になったことがきっかけ、という訳ではないのですが、最

近になって自分の中で立てた目標があります。それに対して不安を感じたり、疑問をもったりすることもあるけれど、そんな些細なことでも、ほめたり、けなしたりすることはいくらでもできるのですから、そういうことを今はあまり考えないようにして、その目標に向かって真摯に取り組んでいきたいと思っています。その結果が良かったのか悪かったのかは、やり遂げた後に振り返って感じるものだと思っています。必死でやるってそういうことだと思っています。

今、私は自分の好きなことが好きなだけできる環境にいます。今はそれがとても幸せに思います。そんな環境を作ってくれた家族にとっても感謝しています。

6市町村の代表が消火の技術競う

ポンプ車操法で飯舘優勝 県大会へ



▲競技のようす (写真は小型ポンプの部)

7月28日、いいたてスポーツ公園陸上競技場で第33回福島県消防操法競技相馬地方大会が行われ、相馬郡6市町村の消防団の代表が日頃の訓練の成果を競い合いました。

競技はポンプ車操法の部と小型ポンプの部の2つの部門で行われ、村からはポンプ車操法の部に

第1分団機動部(草野)が、小型ポンプの部に第1分団第4部(伊丹沢)が出場しました。

競技が始まると、どの市町村の団員たちも大きな声できびきびと操法を行い、その統率のとれた見事な動きに会場からは大きな拍手が送られていました。

競技の結果、小型ポンプの部では惜しくも入賞はなりませんでした。が、ポンプ車操法の部で飯舘村が見事優勝し、県大会への出場が決定しました。

また、優秀操作員にポンプ車操法の部の石井眞治選手と大和田昌裕選手が選ばれました。

同大会での優勝は平成10年以来4年ぶり。県大会は8月23日に福島市の県営あづま総合運動公園で行われる予定です。

出場選手

■ポンプ車操法の部

高山晴美、大井利裕、石井眞治、大和田昌裕、濱野宏之、佐藤 敬

■小型ポンプの部

濱野正之、松林正治、巻野勇一、佐藤庄一、木幡利弘

優勝したポンプ車操法の部の団員たち

